

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科	担当者	西村 明美		
科目名	和装コーディネート	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	着付けマナーを心得た美しい着付けときものに関する知識の習得を目標とする				
◆概要	着付けを通してきものに触れていただき、基本的なきものの知識を学びます				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週(4/6)	授業スタートにあたり挨拶・きもの名称、着付け小物の説明・ボディに着せながら補正の説明実際に補正を行う				
第2週(4/13)	補正・長襦袢の着付け・長襦袢のたたみ方				
第3週(4/20)	補正・長襦袢の着付け・長襦袢、振袖のたたみ方				
第4週(4/27)	補正・長襦袢、振袖の着付け・長襦袢、振袖のたたみ方				
第5週(5/11)	補正・長襦袢、振袖の着付け・長襦袢、振袖のたたみ方				
第6週(5/18)	季節によるコーディネイト・留袖、訪問着の説明・長襦袢の着付け・帯の持ち方・帯×、帯揚げの結び方				
第7週(5/25)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第8週(6/1)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第9週(6/8)	中間試験 ペーパーテスト・実技:補正、長襦袢の着せ方、たたみ方				
第10週(6/15)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第11週(6/22)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第12週(6/29)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第13週(7/6)	浴衣の着付け(自分で着る)・浴衣の所作・和食のマナー				
第14週(7/13)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第15週(7/27)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第16週(8/24)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第17週(8/31)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第18週(9/7)	期末試験 実技:補正、長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
3. 履修上の注意					
女子は二人一組、男子は男性ボディを用いて実習を行う。					
4. 使用教材(テキスト等)					
授業に合わせて、必要時に資料を用意					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 相対評価					
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%					
・ 中間・期末試験 50%					
6. その他					
担当者実務経験:和装ショップ、着付け教室にて着付け講師として勤務する教員が、実務経験から、着付け時の接客マナーや正しい着付けの仕方等を、近年の和装の傾向を交えながら指導する科目である。					

学科コード	W1
-------	----

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	山田 佳代子	
科目名	美容実習（メイク）		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	メイクアップ化粧品や、メイクアップ道具の特徴を理解します。又、色の持つ効果を活かし、衣装のイメージに合ったメイクアップを時間内に仕上げることを目標とします。				
◆概要	多種あるメイクアップ化粧品をを効果的に使い美しく仕上げられること。そしてメイクアップ道具を使いこなせるよう学び、メイクアップのイメージを大きく左右する色物をバランスよく配色できるようにします。実習は相モデルで行い、最終的にモデルの選んだドレスに合ったメイクアップをデッサンし、時間内にそのメイクアップを仕上げることを目標とします。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週(4/8)	・自己紹介 ・メイクの必要性 ・最終目標の確認 ・肌アンケート ・道具の特徴と説明 ・セッティングの仕方 ・施術中のマナー ・ベースメイクテクニック説明（相モデル実習）				
第2週(4/15)	・説明&実習（ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー）				
第3週(4/22)	・説明&実習（同上 ・アイライナー ・アイラッシュ ・マスカラ）				
第4週(5/13)	・説明&実習（同上 ・リップ ・チーク）				
第5週(5/20)	・説明&実習（35分計る ・ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー ・アイライナー ・アイラッシュカーラー ・マスカラ ・リップ ・チーク）				
第6週(5/27)	・同上				
第7週(6/3)	・同上				
第8週(6/10)	中間試験 ベースメイク～チーク(35分間)				
第9週(6/17)	・ドレス決め ・メイクデッサン(メイク&ヘアー) ・実習(色合わせ)				
第10週(6/24)	・それぞれのデッサンを元にメイクする(イメージに合わせて進める)				
第11週(7/1)	・同上				
第12週(7/8)	・同上				
第13週(7/15)	・同上				
第14週(7/29)	・メイクリハーサル(前半) ・メイク&ヘアーセット練習				
第15週(8/26)	・メイクリハーサル(後半) ・メイク&ヘアーセット練習				
第16週(9/2)	1限目 期末試験(前半) ・試験 ・ヘアーセット ・ドレス着用 ・撮影会 ・片付け				
第17週(9/2)	2限目 期末試験(後半) ・試験 ・ヘアーセット ・ドレス着用 ・撮影会 ・片付け				
3. 履修上の注意					

メイクアップ道具は人を美しくするツールなので、常に清潔でなくてはならない。その為、道具の取り扱いやメンテナンスには気を配ること。又、人の肌に直接接触れる為、爪の長さには配慮が必要です。実習後のクレンジングやメイク直しについては、実習道具を使うことなく、自身のメイク道具を持参し行うこと。※実習はノーメイクで行います。化粧下地(日焼け止め)まで付けて来る。(色付きの場合は授業前に落としておく)

#### 4. 使用教材(テキスト等)

・メイク道具一式 ・タオル ・鏡 ・メイクドール ・筆記用具

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(授業態度・実技姿勢) 20%
- ・中間試験(実技) ・期末試験(実技60%&デッサン10%) 各70%

#### 6. その他

担当者実務経験: 化粧品メーカーでビューティーカウンセラーとして勤務経験のある教員が、現場での経験により、接客時のマナーやブライダルメイク、セルフメイクを指導する科目である。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	Sean A. Leischner	
科目名	実務教養1(英会話)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホテルの接客英語のフレーズを覚える。 ゲストが話す英語を聞きとることができる。 臨機応変に英語で対応することができる。				
◆概要	ホテルに来館するゲスト、ホテルマン＝接客のプロと考え、当然ホテルエは英語を話せ、理解できるものと考え話しかけてきます。困っているゲストがいたら、その方の話す言語に関わらず手助けしたいと願うのが真のサービスパーソンです。そのために最低限の英会話フレーズを覚え、英語で対応する努力をし、それを習慣にしてください。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週(4/7)	挨拶とChapter 1 Welcoming Guest				
第2週(4/14)	Chapter 23 Checking Out				
第3週(4/21)	1と23練習すること、Chapter 4 Looking After Guests 1				
第4週(4/28)	1と23練習すること、Chapter 4 Looking After Guests 1				
第5週(5/12)	Chapter 5 Looking After Guests 2				
第6週(5/19)	4と5練習すること、Chapter 10 Guest Problems				
第7週(5/26)	Chapter 3 Difficult Guests				
第8週(6/2)	中間試験の準備すること				
第9週(6/9)	中間試験				
第10週(6/16)	Chapter 17 Housing Keeping				
第11週(6/30)	Chapter 18 Housing Keeping Problems				
第12週(7/7)	17と18練習すること				
第13週(7/14)	Chapter 8 Phone Calls to Reception				
第14週(7/21)	Chapter 3 Difficult Guests				
第15週(7/28)	8と3練習すること				
第16週(8/25)	期末試験の準備すること				
第17週(9/1)	期末試験				
3. 履修上の注意					
積極的に発言すること					
4. 使用教材(テキスト等)					
Hotel & Hospitality English (Collins)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					

学科コード	W1
-------	----

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水 恵美		
科目名	情報リテラシー1,2		必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1	
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期	
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目					
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標	タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWordでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定準2級」および「文書デザイン検定2級」以上の検定に合格する					
◆概要	ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。7月および10月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。					
2. 授業内容 (週単位で記入)						
第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力、インターネットの設定、プリンターの設定 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング					
第2週	ワープロ検定について、ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習					
第3週	ワープロ検定準2級程度の問題解法 個別問題演習					
第4週	ワープロ検定2級程度の問題解法 個別問題演習					
第5週	ワープロ検定準1級程度の問題解法 個別問題演習					
第6週	ワープロ検定1級程度の問題解法 個別問題演習					
第7週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習					
第8週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習					
第9週	情報リテラシー1 期末試験 ワープロ検定準2級程度の問題					
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習					
第11週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習					
第12週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習、文書デザイン検定について					
第13週	問題演習およびワープロ検定 文書デザイン検定3級および2級の問題解答					
第14週	文書デザイン検定2級の問題演習					

第15週	文書デザイン検定2級の問題演習
第16週	文書デザイン検定1級の問題解法 問題演習
第17週	文書デザイン検定1級の問題演習
第18週	情報リテラシー2 期末試験 文書デザイン検定2級程度の問題
<b>3. 履修上の注意</b>	
<p>授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ)。          欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する。          課題が期日までに出せない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。          授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。</p>	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>	
<p>マイクロソフトWordを使用          授業配布プリント          検定過去問題のプリント</p>	
<b>5. 単位認定評価方法</b>	
<p>評価基準:絶対評価          授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30%          ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。</p>	
<b>6. その他</b>	

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル	担当者	小林千尋		
科目名	キャリアプランニング1	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。				
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」				
第2週	ライフライン分析、キャリアパス				
第3週	「職業興味と職業適性」				
第4週	グループワーク「雪山で遭難」、「新聞タワー」				
第5週	自己分析①「ジョハリの窓」、「良いところ見つけ」				
第6週	自己分析②「ほめられたこと」、「エゴグラム」				
第7週	自己PR文をつくってみよう				
第8週	中間テスト(作文)				
第9週	企業研究・求人票を見てみよう①(求められる人材は)				
第10週	企業研究・求人票を見てみよう②(賃金、休日、社会保険など)				
第11週	企業研究・②(求人票を使って)求められる人材とは				
第12週	一般教養(社会人基礎、時事問題)				
第13週	一般教養(初歩のSPI)				
第14週	履歴書作成①(自己PR、志望動機以外を記入)				
第15週	履歴書作成②(自己PR確認、職種志望動機作成)				
第16週	履歴書作成③(期末テストに向けて)				
第17週	期末テスト 履歴書の作成				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容					
6. その他					

学科コード	W1
-------	----

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波		
科目名	ブライダル演習	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	結婚式における挙式・披露宴の演習項目を習得し、模擬挙式・模擬披露宴を学生のみで施行する。なお、8月1日(土)と9月5日(土)のオープンキャンパスにて、1年生全員で模擬挙式・模擬披露宴を施行する。 この科目を通して、ブライダル・ホテル業界に相応しい立ち居振る舞い、礼儀と作法、ブライダル関連商品の取り扱い方を習得する。				
◆概要	ブライダル業界に携わるスペシャリストの実務を理解し、関心を深め実践する。模擬挙式・模擬披露宴の実施は、各役割を決定し担当する。なお、全員がその役割を理解、習得をする。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	授業概要説明/アヴニールとドレスルームの使用ルール説明/ドレス・タキシード・小物類の取り扱い方説明				
第2週	模擬挙式と模擬披露宴、各スペシャリストについて/身嗜みチェック				
第3週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第4週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第5週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第6週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第7週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第8週	模擬挙式・披露宴練習/リハーサル				
第9週	中間試験				
第10週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第11週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第12週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第13週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第14週	模擬挙式・披露宴練習				
第15週	模擬挙式・披露宴練習 <b>★8月1日(土)オープンキャンパス模擬挙式★</b>				
第16週	模擬挙式・披露宴練習				
第17週	模擬挙式・披露宴練習 <b>★9月5日(土)オープンキャンパス模擬挙式★</b>				
第18週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定の身嗜み(別紙参照)に整え授業に臨むこと。</li> <li>・準備、片付けは全員で協力し行い、アヴニール、ドレスルーム使用後は清掃をすること。</li> <li>・校内の備品・商品は使用ルールに則り丁寧に扱うこと。</li> </ul> ※履修上の注意点の項目は、授業への取り組み(授業姿勢)評価の対象とする。					
4. 使用教材(テキスト等)					
日本のウェディングプランナー育成プログラム、日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					

出席による評価15%/授業への取り組み(授業姿勢)60%/中間・期末試験による評価25%

6. その他

担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。

学科コード	W1
-------	----

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬久美子 / 丸山千波	
科目名	パーティープランニング1		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標	7月23日(木)まつもと市民芸術館で開催するドレスショーを施行する。企画力、提案力、オペレーション力、美しい立居振舞いを身に付け、学生がドレスショーの施行、運営、モデルを担当する。学年、学科の枠を越えて、コミュニケーションを図り全員でドレスショーを成功させる。
◆概要	2学年合同の授業内でドレスショーを企画し施行をする。2年生は、セクションごとに、当日までの綿密な実行計画とスケジュールに沿って準備と練習を重ねる。1年生はモデルとして衣裳を着用することで、いかにその衣裳の価値を高められるか考えドレスショーへ出演する。日々の学習で得たこととアイデアを存分に発揮できるようなドレスショーを作る。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週	今年度のイベント概要説明/セクション希望届け	毎週木曜日 1年生はヘアまたは メイク練習
第2週	企画、準備(セクションごと)/担当セクション発表	
第3週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習	
第4週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習	
第5週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習	
第6週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習	
第7週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習	
第8週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習	
第9週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習	
第10週	中間試験(各セクションの中間経過報告と今後のスケジュール共有)	
第11週	校内リハーサル	
第12週	校内リハーサル	
第13週	校内リハーサル	
第14週	校内リハーサル/搬入準備 ※7月16日(木)1・2限/ヘアメイク通しリハ、最終調整、衣裳最終フィッティング※	
第15週	期末試験/搬入、会場リハーサル(7月22日)、本番(7月23日)、搬出	
第16週	ドレスショー片付け/振り返り	
第17週	マニュアル作成	
第18週	マニュアル作成	

3. 履修上の注意

- ・積極的、自主的に取り組み、ドレスショーは全員参加とする。
- ・本番前は、ドレスショー成功のために授業時間外(SHR前・放課後等)で練習に取り組むことがある。
- ・夏季休暇中にドレスショーのレポートを作成し、夏季休暇明けに提出をすることがある。レポートも成績評価の対象とする。
- ・衣裳、小物(アクセサリや造花、パニエなど)、備品は丁寧に扱い、所定の位置へ返却をすること。
- ・ドレスルームの使用法に則り、学校の備品・商品は丁寧に扱い、使用ルールを厳守すること。
- ※準備、片付け、備品・商品の取り扱い、ドレスルームの使用ルールにおいては、成績評価の対象とする。
- ・SNS(LINE、Instagram等)は連絡手段の使用に限る。全員で共有、決定する事項については、授業内で時間を設け、直接話し合いと検討を行い決定すること。
- ・授業時間外にアヴニール、ドレスルームを使用する場合は、教職員と相談すること。
- ・1年生は、毎週木曜日(木)にヘア・メイクの練習へ参加をする。また、施術者(BBC2年生)より、授業時間外(木曜日1限、放課後など)に練習参加の依頼が入ることがあるため、練習スケジュールの管理を各自で行い参加すること。
- ・モデルである1年生は、ヘア・メイク練習に参加する際、モデルとしての自覚を持って臨むこと。施術中の居眠り、非協力的な姿がみられた場合、担当教員より指導が入ることがあり、成績評価の対象となる。

4. 使用教材(テキスト等)
ノートパソコン
5. 単位認定評価方法
評価基準:絶対評価
出席による評価10%/授業の取り組み40%/中間試験、リハーサル、当日の取り組み、完成度50%
6. その他
担当者実務経験:シティホテルでブライダルアテンドとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員とゲストハウスやドレスサロンでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーの経験のある教員が、婚礼イベントに関する進行の組み立て方や、接客術、当日の進行管理・施行方法を、現場での体験や実例を交えて指導を行う科目である。

学科コード	W1
-------	----

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	丸山 千波	
科目名	ブライダルプランニング1		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ブライダル業界の構造、歴史、習慣、用語を理解し、ウエディングプランナーの実務知識や各スペシャリストとの関連とその役割を習得する。 WBJ「認定ウエディングプランナー」の試験合格を目指す。				
◆概要	ブライダル業界の基礎を理解し、実務・接客対応、挙式・披露宴の進行管理など、ウエディングプランナーに必要な知識を習得する。多様化するブライダル業界の現状もあわせて、関心を深め学習する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	概要説明/第1章～第2章				
第2週	ブライダル業界と業態について/パートナー企業とは/ブライダルスペシャリストの職種/地域の習慣と特性				
第3週					
第4週	第4章				
第5週	挙式と披露宴のスタイル				
第6週	第3章 ブライダルの歴史と慣習/結納に関する補足				
第7週					
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	第3章 熨斗と水引について/ご祝儀とは/結婚式参列のマナー/ブライダルサービス				
第11週	第5章				
第12週	婚礼衣裳/美容/花/衣裳業務				
第13週	第6章				
第14週	ウエディングプランナーの業務と流れ/打合せスケジュール/施行当日のスケジュール				
第15週	ドレスショーリハーサル				
第16週	第6章				
第17週	ウエディングプランナーの業務と流れ/打合せスケジュール/施行当日のスケジュール				
第18週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休暇期間中も学習継続のため、課題に取り組むことがある。</li> <li>・WBJ「認定ウエディングプランナー」の試験合格に向け、自主的に学習をすること。</li> <li>・認定試験は、2027年2月に実施予定。授業内または補講期間に実施をする。※試験日程については授業内にて別途案内</li> </ul>					
4. 使用教材(テキスト等)					
日本のウエディングプランナー育成プログラム、ノートパソコン、ブライダル関連の雑誌や書籍					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)30%/課題提出・中間・期末試験による評価60%					
6. その他					
担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。					

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	ユニバーサルマナー		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	障害は医学的には「身体が十分に機能しない状態」であるが、社会的には「社会環境が整っていないために社会への完全参加と平等が満たされない状態」と言える。すべての人に公平な情報とサービスを提供するための〈知識〉を学び、誰もがもつ心のバリアを取り除くための〈意識〉と〈気づき〉をもつことが目標である。また、WEB講義を受講し「ユニバーサルマナー3級」を取得する。				
◆概要	「障害者差別解消法」では〈不当な差別的取扱い〉の禁止と〈合理的配慮〉を行うことを法的義務としている。障害の特性(視覚や聴覚の障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害など)により置かれている状態や状況に応じ、必要に応じた個別の〈合理的配慮〉とは何かを追求する。この科目の受講後に自分の役割がより有意義だと心の変化を実感することが学習の目的である。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ユニバーサルサービス Part1	第1章	ユニバーサルサービスの基本		
第2週		第2章	ユニバーサルサービスに取り組むメリット		
第3週	ユニバーサルサービス Part2	第1章	視覚障害とは		
第4週		第2章	視覚に不自由を感じている方の暮らし		
第5週		第3章	視覚に不自由を感じている方への理解		
第6週	ユニバーサルサービス Part3	第1章	聴覚に不自由を感じていることへの理解		
第7週		第2章	聴覚に不自由を感じている方への接客		
第8週	中間試験				
第9週	ユニバーサルサービス Part4	第1章	肢体に不自由を感じていることへの理解		
第10週		第2章	肢体に不自由を感じている方への接客		
第11週	ユニバーサルサービス Part5	第1章	高齢であること・認知症の傾向があることへの理解		
第12週		第2章	高齢者・認知症のある高齢者への接客・接遇		
第13週	ユニバーサルサービス Part6	第1章	さまざまなお客様への接客・接遇		
第14週			妊婦、お子様連れ、外国人、LGBTQ+		
第15週			知的障害、発達障害、精神障害、言語障害、内部障害		
第16週	「ユニバーサルマナー検定3級」オンライン受験				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
今まで見聞きしてこなかったこと、知ることのなかった物事への関わりには、一歩を踏み出す勇気もてず、躊躇してしまうことがある。他者との関わりに自分、あるいは自分の家族の姿を重ね合わせ、相手の立場に同情ではなく共感の気持ちをもって授業に臨むこと。また、演習時は動きやすい服装で参加すること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ユニバーサルサービス基本テキスト(日本能率協会マネジメントセンター)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%					
・課題発表(中間・期末) 50%					
6. その他					
一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会認定「ユニバーサルマナー検定3級」をWEB受験(日程は後日授業内で詳細をお知らせします。)					

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子
科目名	ホテル総合演習1	必修・選択(注記)	選択必修
単位数	1単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	ホテルで働くどの職種でも、年齢・性別・障害の有無に関わらず、あらゆるお客様の役に立ちたい、喜ばせたい、楽しませたいという気持ちがホテルに必要の資質であることを理解する。		
◆概要	2年次に受験するホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	ホテルとは、ホテル実務技能認定試験、		
第2週	1、ホテルスタッフの心得		
第3週	2、ホテルの種類と組織		
第4週	2、ホテルの種類と組織		
第5週	3、ホテルの歴史(世界)		
第6週	3、ホテルの歴史(日本)		
第7週	4、旅館業法と国際観光ホテル整備法		
第8週	中間試験		
第9週	6、建築基準法		
第10週	7、消防法		
第11週	8、個人情報保護法、バリアフリー新法		
第12週	9、環境問題対策 10、マーケティング		
第13週	11、国際的な社交マナー(プロトコル)(ドレスコード)		
第14週	11、国際的な社交マナー(席次)(国旗掲揚)		
第15週	12、外国人との会話		
第16週	13、危機管理		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
4. 使用教材(テキスト等)			
ホテルテキスト「ホテル業務関連知識」・「宿泊Ⅰフロント・オフィス編」・「宿泊Ⅱフロント・サービス編」〈ウイネット〉			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%			
・課題発表(中間・期末) 70%			
6. その他			
担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。			

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子		
科目名	レストランサービス実習1・2	必修・選択(注記)	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室403	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しいテーブルサービスができる。(①客席案内、②オーダーテイク、③客席での販売促進、④オーダーを通す、⑤伝票処理、⑥種類に応じたテーブルセッティング、⑦料理・飲料の種類に応じたテーブルセット、⑧料理・飲料の運搬、⑨料理・飲料の種類に応じたサービス、⑩食器類の後片付け、⑪突発事態の対処、⑫テーブルバッシング)				
◆概要	料理サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学んでいく。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	実習室の使用及び清掃方法 制服の着用方法 身だしなみ 立ち姿 着席補助				
第2週	接客の基本 什器備品・グラス器類・リネン類の取り扱い ナプキンの織り方				
第3週	【テーブル・クロスのセッティング】 アンダー・クロス、テーブル・クロス、トップ・クロスのかけ方				
第4週	【サーバーの使い方】 サーバー練習(西洋式、日本式)、パンのサービス、ケーキのサービス				
第5週	【プレートサービス】1 基本の持ち方、2枚持ち、3枚持ち				
第6週	【トレイによるコーヒーサービス】 ダストパンの使い方、コーヒー・紅茶の提供方法				
第7週	【水のサービス】【コーヒーサービス】 ウォーターピッチャー、コーヒーポットの注ぎ方				
第8週	中間試験				
第9週	【プレートサービス】2 提供の仕方、下げ方1、下げ方2(カトラリー込み)				
第10週	【プレートサービス】2 提供の仕方、下げ方1、下げ方3(カトラリー込み)				
第11週	【スープのサービス】【トレイによるスープサービス】 スープレードルの使い方、ブイونسープの提供方法				
第12週	【テーブル・セッティング】朝食 コンチネンタル、アメリカン・ブレックファスト				
第13週	【プラッターサービス】1 イギリス式サービス、フランス式サービス				
第14週	【プラッターサービス】2 ロシア式サービス、ソースのかけ方				
第15週	【メニュー】メニューの意味、取り扱い方法、オーダーテイク				
第16週	総復習				
第17週	期末試験1				
3. 履修上の注意					
制服を正しく着用すること。(肩にかかる長さの髪は後ろで束ねお団子にし、シニヨンに入れ込む。白ワイシャツは汚れに留意し綺麗なものを着用する。ネクタイ、ベスト、タブリエは授業開始時間前までに完璧に整えてから授業に参加する。)授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。当番はチェック表にサインし、翌日の洗濯物の取り込み作業も評価対象とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。					
4. 使用教材(テキスト等)					
なし					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 70%					
・中間・期末試験状況 20%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。					
担当者実務経験: 五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子		
科目名	総合実習1(TOEIC対策)	必修・選択(注記)	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習1では、まずTOEIC試験(リスニング45分・リーディング75分)に耐え、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを100スコア上げる。(総合演習2まで履修した後の目標) また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト、発音記号の読み方				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第7週	中間試験:TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験:TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第16週	期末試験:TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験:TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。 また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。 希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155+施設運営費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント使用、TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>968円(自費)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	竹内 遥	
科目名	衛生学		必修・選択（注記）	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	食品衛生、公衆衛生、安全衛生に関する知識と技術を習得し、基本的な仕組みを理解し適切な衛生管理を行う能力を身に付ける。				
◆概要	飲食店で食品衛生を十分に行うために食品取扱者は、多数の消費者への健康を支配する食品を取り扱っているということを自覚し、非衛生的な取扱いによって人々の生命の危険を与えるおそれがあることを認識し、食品衛生に関する知識を十分に持ち、衛生的な取り扱いについて学ぶ。また、公衆衛生の意義、「労働安全衛生法」をもとに安全衛生についても学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	食品衛生・衛生行政				
第2週	食中毒予防・個人と集団の衛生				
第3週	食中毒発生の推移と統計				
第4週	細菌性食中毒①				
第5週	細菌性食中毒②				
第6週	細菌性食中毒③				
第7週	ウイルス性食中毒・自然毒				
第8週	寄生虫				
第9週	中間試験				
第10週	衛生害虫 腐敗と変敗				
第11週	食品の保存 殺菌				
第12週	環境衛生・HACCPについて				
第13週	感染症				
第14週	食品衛生法について				
第15週	労働災害				
第16週	労働安全衛生法				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材（テキスト等） 西洋料理 料飲接客サービス技法〈日本ホテル・レストランサービス技能協会〉					
5. 単位認定評価方法 評価基準：絶対評価 ・試験90％ ・授業態度10％					
6. その他					

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス			学科コード	W1	
学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科		担当者	丸山 千波	
科目名	ブライダルプランニング2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2月に予定している挙式披露宴実習(リアルウェディング)に向けて企画、プレゼン、準備、練習、施行を学生が主体となって実施する。企画、提案力の向上と施行運営の能力を身に付け、リアルウェディングを成功させる。				
◆概要	リアルウェディングの施行に向けて、企画、お打ち合わせ(提案)、施行・運営、全てにおいて学生が携わる。結婚式に関わる各スペシャリストの存在を理解、把握し、役割を決定し担当をする。準備、練習はセクションごとチームとなり、他セクションと協力をしながら取り組む。一般的な結婚式のスケジュールに則り、円滑に打ち合わせや提案が行えるよう、必要な資料(アンケートや提案)の作成および、製作物の提案、製作、完成までを行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	挙式実習について概要説明/新郎新婦について/注意事項等 昨年度の担当セクションと実施内容の共有				
第2週	グループワーク(テーマ、進行、演出等の企画と提案)				
第3週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第4週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第5週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第6週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第7週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第8週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第9週	中間試験(経過報告)/グループワーク、挙式披露宴練習				
第10週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第11週	挙式披露宴通し練習				
第12週	挙式披露宴通し練習				
第13週	挙式披露宴通し練習				
第14週	挙式披露宴通し練習				
第15週	期末試験 ★リハーサル(2027年2月3日(水))/本番(2027年2月4日(木))【予定】				
第16週	振り返り・反省会				
第17週	お礼状作成、マニュアル作成、提出				
3. 履修上の注意					

- ・2学年合同の授業とし、リアルウェディングの施行は学生全員が参加すること。
- ・1、2年生でグループを組み、グループワークやプレゼンテーションを実施する。
- ・自主的かつ積極的に取り組むことが必要だが、チームで協力することが必要なため、相談や報告なしに個人の判断で行動することはしない。
- ・2年生は、2年間の学びの集大成として、リアルウェディングを施行する。
- ・1年生は習得中の学びに加え、結婚式を企画・運営する基礎を学び、2年生と共に取り組む。
- ・制作物は、2年生の卒業研究と関連、並行して行うため、授業の都度、経過状況を共有する。
- ・グループワークを基本とするため授業時間内で企画や製作を行うが、授業時間内で取り組めなかった場合、授業時間外(SHR前、放課後等)に準備、練習を行うことがある。計画を立て取り組むこと。
- ・SNS(LINE、Instagram等)は、連絡手段の使用に限る。全員で共有、決定する事項に関しては、授業内で時間を設け、直接話し合い、決定・検討を行うこと。
- ・授業時間外にアヴニール、ドレスルームを使用する場合は、事前に教員と相談をする。

#### ノートパソコン

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)50%/提出物・中間・期末試験による評価40%

#### 6. その他

担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウェディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子(実務経験者)	
科目名	レストランサービス実習3・4		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室403	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しいテーブルサービスができる。(①客席案内、②オーダーテイク、③客席での販売促進、④オーダーを通す、⑤伝票処理、⑥種類に応じたテーブルセッティング、⑦料理・飲料の種類に応じたテーブルセット、⑧料理・飲料の運搬、⑨料理・飲料の種類に応じたサービス、⑩食器類の後片付け、⑪突発事態の対処、⑫テーブルパッシング)				
◆概要	料飲サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【朝食サービス】1 サーバー制度概要、役割分担				
第2週	【朝食サービス】2 セッティング				
第3週	【朝食サービス】3 オーダーの受け方、確認方法、伝票の書き方				
第4週	【朝食サービス】4 1テーブル ソムリエナイフの構造				
第5週	【朝食サービス】5 1テーブル スティルワイン抜栓				
第6週	【朝食サービス】6 2テーブル スパークリングワイン抜栓				
第7週	【朝食サービス】7 2テーブル ワインサーブ(ホストテイस्टィング)				
第8週	中間試験				
第9週	【ランチサービス】1 ランチメニュー概要、セッティング、オーダーテイク、電話対応				
第10週	【ランチサービス】2 1テーブル				
第11週	【ランチサービス】3 2テーブル				
第12週	【ランチサービス】4 3テーブル				
第13週	【ランチサービス】5 3テーブル				
第14週	【ランチサービス】6 4テーブル				
第15週	【ランチサービス】7 4テーブル				
第16週	【ランチサービス】8 4テーブル				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
制服を正しく着用すること。(肩にかかる長さの髪は後ろで束ねお団子にし、シニヨンに入れ込む。白ワイシャツは汚れに留意し綺麗なものを着用する。ネクタイ、ベスト、タブリエは授業開始時間前までに完璧に整えてから授業に参加する。)授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。当番はチェック表にサインし、翌日の洗濯物の取り込み作業も評価対象とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。					
4. 使用教材(テキスト等)					
なし					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)70%					
・中間・期末試験状況 20%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。					
担当者実務経験：五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ドレスコーディネート1	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>			
◆到達目標	ドレスコーディネーターに必要な、婚礼衣裳に関する歴史、基礎知識、専門用語、業態や実務を習得する。実践的な技術では、トータルコーディネート、接客スキル、商品の取り扱い、花嫁の所作と立ち居振る舞いを学ぶ。 WBJ「認定ドレスコーディネーターの試験合格を目指す。		
◆概要	ドレスコーディネーターに必要な基礎的知識を学び、ブライダル業界に携わるスペシャリストとしての理解と関心を深める。基礎知識だけでなく、実践を交えてドレスコーディネーターの業務と実務も学ぶ。		
<b>2. 授業内容（週単位で記入）</b>			
第1週			
第2週	概要説明/第1章 衣裳に関わるスペシャリスト、婚礼衣裳業界について、ドレスコード		
第3週			
第4週			
第5週	第2章		
第6週	新婦の衣裳(洋装)		
第7週	歴史、デザイン、各名称、サイズ、素材、小物、ブーケ		
第8週			
第9週	<b>中間試験</b>		
第10週	第2章		
第11週	新婦の衣裳(和装) 歴史、各名称、素材、小物		
第12週			
第13週	第6章		
第14週	ドレスコーディネーターの実務		
第15週	トータルコーディネート、衣裳のアドバイス、補正、採寸、フィッティング		
第16週			
第17週	<b>期末試験</b>		
<b>3. 履修上の注意</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休暇期間中も学習継続のため、課題を取り組むことがある。</li> <li>・WBJ「認定ドレスコーディネーターの」の試験合格に向け、自主的に学習をする。※認定試験は2年次に実施。</li> <li>・ドレスルームの使用方に則り、学校の備品・商品は丁寧に扱う。備品・商品の取り扱いにおいては、授業への取り組み(授業姿勢)評価の対象とする。</li> </ul>			
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>			
日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン、ブライダル情報雑誌、裁縫道具			
<b>5. 単位認定評価方法</b>			
評価基準: 絶対評価			
出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)35%/課題提出・中間・期末試験による評価55%			
<b>6. その他</b>			
担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。			

学科コード	W1
-------	----

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水 恵美	
科目名	情報リテラシー3,4		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトExcelでビジネス資料等の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「表計算検定2級」以上の検定に合格する				
◆概要	表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。2月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。なお、12月の検定は希望受験とする。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	文書デザイン検定問題対策・問題演習				
第2週	文書デザイン検定問題対策・問題演習				
第3週	文書デザイン検定問題対策・問題演習				
第4週	表計算検定について、表計算検定3級の問題解法 問題演習				
第5週	表計算検定3級の問題解法 問題演習				
第6週	表計算検定3級の問題解法 問題演習				
第7週	表計算検定準2級の問題解法 問題演習				
第8週	表計算検定準2級の問題解法 問題演習				
第9週	表計算検定2級の問題解法 問題演習				
第10週	情報リテラシー3 期末試験 表計算検定準2級程度の問題				
第11週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第12週	表計算検定準1級の問題解法 問題演習				
第13週	表計算検定1級の問題解法 問題演習				
第14週	表計算検定1級の問題解法 問題演習				
第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				

第17週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第18週	表計算検定（情報リテラシー4 期末試験兼ねる）
<b>3. 履修上の注意</b>	
<p>授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ)。          欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する。          課題が期日までに出せない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。          授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。</p>	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>	
<p>マイクロソフトExcel使用          授業配布プリント          検定過去問題のプリント</p>	
<b>5. 単位認定評価方法</b>	
<p>評価基準:絶対評価          授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30%          ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。</p>	
<b>6. その他</b>	
<p>※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する          また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある</p>	

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水 恵美	
科目名	メディアデザイン		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	画像・動画についての基本的な知識が身につく。 動画編集ソフトAviUtlを使って動画の作成・編集ができる。 基本的な動画制作の工程を理解し、流れにそってオリジナル作品が制作できる。				
◆概要	画像・動画についての基本的な知識を習得する。動画編集ソフトAviUtlで基本的な動画編集方法、メイキングビデオ等の制作工程を習得する。最後にオリジナルムービーを制作し発表する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	AviUtlアプリのインストールと設定				
第2週	AviUtlの基本操作1 課題演習				
第3週	AviUtlの基本操作2 フィルタの適用、ファイルの出力と保存 課題演習				
第4週	AviUtlの拡張編集1 オブジェクトの編集				
第5週	AviUtlの拡張編集2 オブジェクトの編集				
第6週	AviUtlの拡張編集3 Pluginを利用した編集				
第7週	AviUtlの拡張編集4 Pluginを利用した編集				
第8週	AviUtlの拡張編集5 テキストオブジェクトの配置				
第9週	AviUtlの拡張編集6 テキストオブジェクトの配置				
第10週	AviUtlの拡張編集7 AviUtlの上級機能				
第11週	オリジナルムービー制作				
第12週	オリジナルムービー制作				
第13週	オリジナルムービー制作				
第14週	オリジナルムービー制作				
第15週	オリジナルムービー制作				
第16週	オリジナルムービー制作				
第17週	オリジナルムービー制作				
第18週	期末試験は以下により評価 オリジナルムービーの発表				
3. 履修上の注意					
動画編集ソフトとしてAviUtlを使用する。期末以外にも課題制作を行う。課題は必ず提出すること。欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を出すこともある。未提出の場合は、単位不認定とする事がある。					
4. 使用教材(テキスト等)					

『AviUtl動画編集実践ガイドブック』(技術評論社)

課題プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

授業態度 20%、期末課題 40%、課題 20%

ただし、課題提出状況や出席状況に応じて評価は変動する。

6. その他

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ブライダルプランナー演習 1	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	前・後期
			後期
			○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	1年前期に学習したブライダルの歴史、習慣、儀式、用語を理解した上で、ウェディングプランナーの業務、実務、役割を習得する。WBJ「認定ウェディングプランナー」の試験合格を目指す。		
◆概要	ブライダル業界の基礎を理解し、実務・接客対応、挙式・披露宴の進行管理など、ウェディングプランナーに必要な知識を習得する。多様化するブライダル業界の現状もあわせて学び、関心を深め学習する。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	第7章 新規接客業務/コンセプトウェディングの提案		
第2週			
第3週			
第4週	第8章 婚礼施行・進行管理業務		
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週	中間試験		
第10週	第9章 婚礼施行・進行管理業務		
第11週			
第12週	第10章 販売促進		
第13週			
第14週	時事問題/試験対策		
第15週	模擬試験		
第16週	検定対策		
第17週	期末試験 / WBJ「認定ウェディングプランナー検定」実施		
3. 履修上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休暇期間中も学習継続のため、課題を取り組むことがある。</li> <li>・学習に入る前に、第1章～第6章の復習を必ず行い、認定試験に向けて自主学習を行うこと。</li> <li>・認定試験は2027年2月に実施予定。授業内または補講期間に実施をする。※試験日程については授業内にて別途案内</li> </ul>			
4. 使用教材(テキスト等)			
日本のウェディングプランナー育成プログラム			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)30%/課題提出・中間・期末試験による評価60%			
6. その他			
担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウェディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。			

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	Sean A. Leischner		
科目名	実務教養2(英会話)	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	ホテルの接客英語のフレーズを覚える。 ゲストが話す英語を聞きとることができる。 臨機応変に英語で対応することができる。				
◆概要	ホテルに来館するゲスト、ホテルマン＝接客のプロと考え、当然ホテルエは英語を話せ、理解できるものと考え話しかけてきます。困っているゲストがいたら、その方の話す言語に関わらず手助けしたいと願うのが真のサービスパーソンです。そのために最低限の英会話フレーズを覚え、英語で対応する努力をし、それを習慣にしてください。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週 (9/29)	一学期の内容を練習すること、Chapter 14 in the restaurant 1				
第2週 (10/6)	Chapter 15 in the restaurant 2				
第3週 (10/13)	Chapter 16 in the restaurant 3				
第4週 (10/27)	14、15と16練習すること				
第5週 (11/10)	中間テストの準備すること				
第6週 (11/17)	中間試験				
第7週 (11/24)	Chapter 12 At the bar				
第8週 (12/1)	Chapter 13 Complaints from guests at the bar				
第9週 (12/8)	12と13の練習すること、Chapter 19 Room Service				
第10週 (12/15)	Chapter 19 Room Service(続き)、Chapter 22 Recommendations for places to eat				
第11週 (12/22)	19と22練習すること				
第12週 (1/12)	Chapter 11 At breakfast				
第13週 (1/19)	11の練習すること、教科書の最後の練習				
第14週 (1/26)	教科書の最後の練習				
第15週 (2/2)	期末試験の準備すること				
第16週 (2/9)	期末試験の準備すること				
第17週 (2/16)	期末試験				
<b>3. 履修上の注意</b>					
積極的に発言すること					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
Hotel & Hospitality English (Collins)					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み (課題の提出・授業姿勢) 15%					
・ 課題発表 (中間・期末) 70%					
<b>6. その他</b>					

学科コード	N1
-------	----

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	キャリアプランニング1での基礎に基づき、希望する業種・職種で職を得る。				
◆概要	キャリアプランニング1の内容をフォローしつつ、再度確認したゴールを目指す。効果的で適正な就職活動を行うべく実務的な準備(履歴書作成、志望動機・自己PRの作成など)と、広い意味でのキャリア教育(職業観、ライフワークバランス、仕事と法律など)を学び、一緒に考える。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	一般教養/時事問題 ①				
第2週	一般教養/時事問題 ②				
第3週	ナビ求人 の活用とナビ登録				
第4週	SPI				
第5週	SPI				
第6週	ビジネスマナー① (メラビアン の法則、お辞儀、立ち居振る舞いなど)				
第7週	ビジネスマナー② (面接、入退室など)				
第8週	中間テスト				
第9週	面接/電話対応① (面接と電話対応について、注意事項)				
第10週	面接/電話対応② (面接でよく聞かれること、注意事項)				
第11週	面接/電話対応③ (グループで実践)				
第12週	就活用写真撮影				
第13週	就職ラリー対策①				
第14週	就職ラリー対策②				
第15週	企業リサーチと求人票の見方				
第16週	就活手帳の活用方法、送付状作成、封筒の宛名書き				
第17週	期末テスト(求職票の作成)				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容					
6. その他					

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習2(TOEIC対策)		必修・選択(注 記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予 定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習2でも、まずTOEIC試験(リスニング45分・リーディング75分)に耐え、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを100点上げる。(総合演習2まで履修した後の目標)また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第7週	中間試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第15週	期末試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第16週	期末試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155+施設運営費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント使用、TOEICTEST必ずでる単スピードマスター<Jリサーチ出版>968円(自費)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日)総合演習1を履修していない学生も総合演習2から受講が可能。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	料飲概論		必修・選択（注記）	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホテルの料飲部門（レストラン・宴会）では、お客様に料理・飲物を提供する。お客様に満足と感動を与え、認めていただくには、実習で学ぶ技能のほかに、あらゆる食材・飲料・衛生に対する知識を備える。また、ホテル実務技能検定初級・上級、およびレストランサービス技能検定3級の出題範囲であるため、暗記ではなく長期的な知識として身に付ける。				
◆概要	料飲サービススタッフは、日々様々なお客様を迎え接客することから、お客様の質問に適切に説明するために必要な基本的知識や関連・周辺知識を身につけておかなければならない。料理や飲料はその国の気候風土と味覚に合うような形で発展してきたものであるため、母国のそれと性質が異なっても偏見でなく敬意をもって学習する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	【第4節 飲料の種類および特徴】	ワインの分類 ブドウ品種			
第2週	【第4節 飲料の種類および特徴】	フランスのワイン			
第3週	【第4節 飲料の種類および特徴】	フランスのワイン			
第4週	【第4節 飲料の種類および特徴】	ドイツのワイン			
第5週	【第4節 飲料の種類および特徴】	イタリアのワイン			
第6週	【第5節 飲料の種類および特徴】	アメリカのワイン スペインのワイン			
第7週	【第5節 飲料の種類および特徴】	オーストラリアのワイン ニューージーランドのワイン			
第8週	中間試験				
第9週	【第5節 飲料の種類および特徴】	チリのワイン アルゼンチンのワイン			
第10週	【第5節 飲料の種類および特徴】	日本のワイン			
第11週	【第5節 飲料の種類および特徴】	ワインの管理 酒精強化ワイン 混成ワイン			
第12週	【第5節 飲料の種類および特徴】	ビール			
第13週	【第5節 飲料の種類および特徴】	スピリッツ			
第14週	【第5節 飲料の種類および特徴】	リキュール			
第15週	【第5節 飲料の種類および特徴】	日本酒 焼酎 泡盛			
第16週	【第5節 飲料の種類および特徴】	コーヒー 紅茶			
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
香りのデグスタションを行う。（酒類の試飲はありません。）					
4. 使用教材（テキスト等）					
西洋料理 料飲接客サービス技法					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%					
・課題発表（中間・期末） 70%					
6. その他					
担当者実務経験：五つ星ホテルでソムリエ・日本酒唎酒師・和洋サービスの経験のある教員が、飲料の概要・歴史・醸造及び蒸留方法やメニュー解説などの具体的内容を現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	ホテル総合演習2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	1年次に履修した『ホテル総合演習1』で習得した業務関連の知識を基に、料飲部門の知識を深め、ホテル実務技能認定試験上級の合格を目指す。				
◆概要	ホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	【料飲Ⅰレストラン・宴会編】 『料飲部門の基礎知識』第1章 料飲部門概要、第2章 什器・食器・備品類の知識				
第2週	第3章 メニュー				
第3週	第4章 西洋料理の基礎知識(概要、フルコース順序、フルコース解説、テーブルマナー、食材)				
第4週	第5章 朝食の基礎知識				
第5週	第6章 日本料理・中国料理の基礎知識				
第6週	『レストラン実務概論』第4章 ルームサービス				
第7週	中間試験				
第8週	『宴会実務概論』第1章 概要、第2章 宴会予約、第3章 宴会サービス				
第9週					
第10週	第4章 婚礼サービスと慶弔の知識				
第11週	【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】第1章 バー・ラウンジの概要				
第12週	第2章 酒の基礎知識(定義、蒸留酒、醸造酒、混成酒)				
第13週					
第14週	第3章 カクテルの知識(概要、材料、用具、作り方、種類、関係用語、レシピ)				
第15週					
第16週					
第17週	期末試験				
<b>3. 履修上の注意</b>					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b> ホテルテキスト【料飲Ⅰレストラン・宴会編】、【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】					
<b>5. 単位認定評価方法</b> 評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・課題発表(中間・期末) 70%					
<b>6. その他</b> 担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科コード	W1
-------	----

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波		
科目名	総合演習 1	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動を通して、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルームを活動を行います。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活のルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間等は授業内で指示をします。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ドレスコーディネート2	必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	前・後期
			前期
			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>			
◆到達目標	ドレスコーディネーターに必要な、婚礼衣裳に関する歴史、基礎知識、専門用語、業態や実務を習得する。実践的な技術では、トータルコーディネート、接客スキル、商品の取り扱い、花嫁の所作と立ち居振る舞いを知る。 WBJ「認定ドレスコーディネーターの試験合格を目指す。		
◆概要	ドレスコーディネーターに必要な基礎的知識を学び、ブライダル業界に携わるスペシャリストとしての理解と関心を深める。基礎知識だけでなく、実践を交えてドレスコーディネーターの業務と実務も学ぶ。		
<b>2. 授業内容（週単位で記入）</b>			
第1週	第6章		
第2週	ドレスコーディネーターの実務		
第3週	トータルコーディネート、衣裳のアドバイス、補正、採寸、フィッティング、マタニティ対応		
第4週	フィッティング&コーディネート体験		
第5週	第3章		
第6週	新郎の衣裳(洋装・和装)		
第7週	歴史、種類、サイズ、小物、名称		
第8週	第5章		
第9週	ドレスコーディネーターの業務		
第10週	接遇体験(ヒアリング～衣裳セレクト～クロージング)		
第11週	中間試験		
第12週	第4章 列席者の衣裳		
第13週	第7章 婚礼美容		
第14週	第8章 ブライダルフラワー		
第15週	試験対策		
第16週	ドレスショー		
第17週	試験対策		
第18週	試験対策/模擬試験		
第19週	期末試験/WBJ認定ドレスコーディネーター試験実施		
<b>3. 履修上の注意</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休暇期間中も学習継続のため、課題に取り組むことがある。</li> <li>・WBJ「認定ドレスコーディネーターの」の試験合格に向け、自主的に振り返りと学習をする。</li> <li>・実習において、準備と片付けは全員で協力し行い、ドレスルームの清掃を行うこと。</li> <li>・ドレスルームの使用法に則り、学校の備品・商品は丁寧に扱い、使用ルールを厳守すること。</li> </ul> ※準備、片付け、備品・商品の取り扱い、ドレスルームの使用ルールにおいては、授業への取り組み(授業姿勢)評価の対象とする。			
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>			
日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン、ブライダル情報雑誌、裁縫道具			
<b>5. 単位認定評価方法</b>			
評価基準: 絶対評価			
出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)35%/課題提出・中間・期末試験による評価55%			
<b>6. その他</b>			
担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。			

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬久美子 / 丸山千波		
科目名	パーティープランニング2	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	7月23日(木)まつもと市民芸術館で開催するドレスショーを施行する。企画力、提案力、オペレーション力、美しい立居振舞いを身に付け、学生がドレスショーの施行、運営、モデルを担当する。学年、学科の枠を越えて、コミュニケーションを図り全員でドレスショーを成功させる。				
◆概要	2学年合同の授業内でドレスショーを企画し施行をする。2年生は、セクションごとに、当日までの綿密な実行計画とスケジュールに沿って準備と練習を重ねる。1年生はモデルとして衣裳を着用することで、いかにその衣裳の価値を高められるか考えドレスショーへ出演する。日々の学習で得たこととアイデアを存分に発揮できるようなドレスショーを作る。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	今年度のイベント概要説明/セクション希望届け				毎週木曜日 1年生はヘアまたは メイク練習
第2週	企画、準備(セクションごと)/担当セクション発表				
第3週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習				
第4週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習				
第5週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習				
第6週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習				
第7週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習				
第8週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習				
第9週	企画、準備(セクションごと)/ウォーキング・ポージング練習				
第10週	中間試験(各セクションの中間経過報告と今後のスケジュール共有)				
第11週	校内リハーサル				
第12週	校内リハーサル				
第13週	校内リハーサル				
第14週	校内リハーサル/搬入準備 ※7月16日(木)1・2限/ヘアメイク通しリハ、最終調整、衣裳最終フィッティング				
第15週	期末試験/搬入、会場リハーサル(7月22日)、本番(7月23日)、搬出				
第16週	ドレスショー片付け/振り返り				
第17週	マニュアル作成				
第18週	マニュアル作成				
<b>3. 履修上の注意</b>					

- ・積極的、自主的に取り組み、ドレスショーは全員参加とする。
- ・本番前は、ドレスショー成功のために授業時間外(SHR前・放課後等)で練習に取り組むことがある。
- ・夏季休暇中にドレスショーのレポートを作成し、夏季休暇明けに提出をすることがある。レポートも成績評価の対象とする。
- ・衣裳、小物(アクセサリや造花、パニエなど)、備品は丁寧に扱い、所定の位置へ返却をすること。
- ・ドレスルームの使用法に則り、学校の備品・商品は丁寧に扱い、使用ルールを厳守すること。
- ※準備、片付け、備品・商品の取り扱い、ドレスルームの使用ルールにおいては、成績評価の対象とする。
- ・SNS(LINE、Instagram等)は連絡手段の使用に限る。全員で共有、決定する事項については、授業内で時間を設け、直接話し合いと検討を行い決定すること。
- ・授業時間外にアヴニール、ドレスルームを使用する場合は、教職員と相談すること。
- ・1年生は、毎週木曜日にヘア・メイクの練習へ参加をする。また、施術者(BBC2年生)より、授業時間外(木曜日1限、放課後など)に練習参加の依頼が入ることがあるため、練習スケジュールの管理を各自で行い参加すること。
- ・モデルである1年生は、ヘア・メイク練習に参加する際、モデルとしての自覚を持って臨むこと。施術中の居眠り、非協力的な姿がみられた場合、担当教員より指導が入ることがあり、成績評価の対象となる。

#### 4. 使用教材(テキスト等)

ノートパソコン

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出席による評価10%/授業の取り組み40%/中間試験、リハーサル、当日の取り組み、完成度50%

#### 6. その他

担当者実務経験: シティホテルでブライダルアテンドとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員とゲストハウスやドレスサロンでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーの経験のある教員が、婚礼イベントに関する進行の組み立て方や、接客術、当日の進行管理・施行方法を、現場での体験や実例を交えて指導を行う科目である。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ウエディングスビューティフル1	必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	前・後期
			前期
			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>			
◆到達目標	アメリカのウエディングに関する歴史、慣習、宗教における挙式との関連性を学び日本のウエディングとの違いを理解する。欧米のウエディングの基礎を学びながら、ブライダルのプロとして「人間力」と「ビジネスのプロセス」をテキストに沿って学習する。WBW「認定ウエディングスペシャリスト」の合格を目指す。		
◆概要	ウエディングの本場であるアメリカの歴史、慣習を筆頭に、「ヒューマンスキル(人としての成長)」、「世界のウエディングと宗教の関連性」、「ビジネス力」を習得する。全16章を1章ごとに学習し、課題を提出する。提出課題は、正解だけを問うのではなく、自身の考えや独自の発想力を活かし、自ら考え行動する力を養う。		
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>			
第1週	Weddings Beautiful概要説明/解答方法説明		
第2週	第1章【ウエディングプロデューサーとして企業する】解説/課題		
第3週			
第4週	第2章【メンタルパワー】解説/課題		
第5週			
第6週	第3章【本当の自分】解説/課題		
第7週			
第8週	第4章【伝える技術】解説/課題		
第9週			
第10週	第5章【ピープル・マネジメント・スキル】解説/課題		
第11週			
第12週	第6章【結婚式の慣習】解説/課題		
第13週			
第14週	第7章【結婚式の歴史】解説/課題		
第15週			
第16週	第8章【挙式-1】解説/課題		
第17週			
第18週	第9章【挙式-2】解説/課題		
第19週			
<b>3. 履修上の注意</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習前に各章や指定範囲を必ず読み授業に臨むこと。</li> <li>・課題の提出は、実施した授業内または放課後までに提出をすること。</li> <li>・課題はA+～Cの成績がつき返却される。Cの評価は合格点に達するまで再提出が必要となる。</li> <li>・課題合格に向け、課題提出やグループワークを実施することがある。</li> <li>・第16章(最終章)は課題量が多いため、第1章～第15章の振返りができるように自身でノートや課題をまとめる他、計画的に課題を進めること。</li> </ul>			
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>			

ウエディングスビューティフルテキスト、日本のウエディングプランナー育成プログラム、日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン、雑誌、式場パンフレット、電卓

評価基準:絶対評価

出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)40%/課題成績50%

#### 6. その他

担当者実務経験:専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	レストランサービス実習5. 6		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室403	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しい西洋料理のランチテーブルサービスができる。3、各セクション(フロントサーバー、バックサーバー、ランナー、レセプションニスト)の役割を正しく理解し、簡潔かつ的確なコミュニケーションを取りながら実践できる。4、カクテル演習の知識を深め、備品の正しい使用方法を身につける。5、カクテルレシピを制作する。6、学生カフェの運営を通し、コミュニケーションの重要度を理解する。				
◆概要	料飲サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学んでいく。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週(4/7)	カクテル概要、備品扱い	カクテル技法(1限)、サーバー制度(2限)			
第2週(4/14)	レシピ作成、原価計算				
第3週(4/21)	レシピ宿題				
第4週(5/12)	個人レシピプレゼン/フルーツデクパージュ				
第5週(5/26)	メニュー説明・ポジション概要				
第6週(6/2)	ポジション希望届け(MGR×1、サーバー×3、バー×1、デシャップ×1、レセプション×1) × 2チーム				
第7週(6/9)	技術試験/ポジション発表				
第8週(6/16)	学生カフェ始動/デモンストレーション				
第9週(6/23)	学生カフェポジション別打ち合わせ・練習				
第10週(6/30)	学生カフェポジション別打ち合わせ・練習				
第11週(7/7)	学生カフェA練習(Bゲスト)⇒B練習(Aゲスト)				
第12週(7/14)	学生カフェB練習(Aゲスト)⇒A練習(Bゲスト)				
第13週(7/28)	学生カフェA練習(Bゲスト)⇒B練習(Aゲスト)				
第14週(8/25)	学生カフェB練習(Aゲスト)⇒A練習(Bゲスト)				
第15週(9/1)	学生カフェリハ・最終調整				
第16週(9/8(火))	Aチーム営業(11～13時L.O.14時閉店)、反省会				
第16週(9/9)	Bチーム営業(11～13時L.O.14時閉店)、反省会				
3. 履修上の注意					
制服を正しく着用すること。(肩にかかる長さの髪は後ろで束ねお団子にし、シニヨンに入れ込む。白ワイシャツは汚れに留意し綺麗なものを着用する。ネクタイ、ベスト、タブリエは授業開始時間前までに完璧に整えてから授業に参加する。)授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。当番はチェック表にサインし、翌日の洗濯物の取り込み作業も評価対象とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。					
4. 使用教材(テキスト等)					
なし					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 70%					
・中間・期末試験状況 20%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。					
担当者実務経験: 五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子(実務経験者)	
科目名	サービス論1・2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	平成14年に厚生労働省大臣より職業能力開発促進法に基づく「レストランサービス技能士」の指定試験機関の指定を受けた『日本ホテル・レストランサービス技能協会』主催のレストランサービス技能3級試験(国家資格)の筆記試験の合格を目標とする。 (尚、実技試験の受験資格は同筆記試験合格後に得られ、その対策授業は後期の『料飲サービス1・2』で実施する。)				
◆概要	「レストランサービス技能検定」を受検するためには、各等級毎に所定の実務経験年数が必要となるが、3級については実務経験年数のない専門学校の在校生で卒業する見込みのある者も受検できるよう例外的な措置として承認校制度が設けられ、未来ビジネスカレッジはその承認校である。在学中に国家資格を取得することはサービス業界でも高い評価を得られる。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	【第1章 食材・飲料等の基礎知識】	第1節：食品			
第2週		第2節：西洋料理に使用される主な食材			
第3週		第3節：調理法 第5節：メニュー			
第4週	【第3章 宴会とレストランサービス】	第12節：食事の国際習慣			
第5週	【第4章 食文化】	第2節：食文化と食事作法			
第6週		第3節：西洋料理の変遷			
第7週	【第5章 施設管理】 【第6章 苦情対応と遺失物の取り扱い】				
第8週	中間試験				
第9週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第10週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第11週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第12週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第13週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第14週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第15週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第16週	HRS実技試験について HRS実技試験対策				
第17週	HRS実技試験について HRS実技試験対策				
<b>3. 履修上の注意</b>					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b> 西洋料理 料飲接客サービス技法					
<b>5. 単位認定評価方法</b> 評価基準：絶対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・課題発表(中間・期末) 70%					
<b>6. その他</b> 担当者実務経験：都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水	
科目名	カラーコーディネート1		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	配色の基本、色をもたらす心理的効果、生活の中での色をもたらす効果などを学び、色のコーディネートの仕方や日常における色の活用方法を理解する。 色彩検定3級に合格する。				
◆概要	色のはたらきや性質、「色」の表し方や混色理論などの基礎知識、色をもたらす心理的効果、カラーコーディネートの基礎を学ぶ。配色(色の組み合わせ)については、主に「PCCS」(色彩体系の一つ)をもとに学んでいく。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	色彩心理 色のはたらき、光と色(光とは)				
第2週	色彩心理 光と色(光の性質、眼のしくみ)				
第3週	色彩心理 光と色(眼のしくみ、照明)				
第4週	色彩心理 光と色(混色)				
第5週	色彩心理 色の表示(色の分類と三属性)				
第6週	色の表示(色の分類と三属性)、当色相面と色立体				
第7週	色の表示(PCCS)				
第8週	色の表示(PCCS) PCCSカラーダイヤル作成				
第9週	中間試験 色彩心理(色の心理的効果)				
第10週	色彩心理(色の心理的効果)				
第11週	色彩心理(色の心理的効果)				
第12週	色彩調和(色相から配色を考える)				
第13週	色彩調和(色相から配色を考える)				
第14週	色彩調和(トーンから配色を考える)				
第15週	色彩調和(色相とトーンを組み合わせる配色を考える)				
第16週	色彩調和(配色の基本技法) 配色イメージ				
第17週	問題演習				
第18週	期末試験				
3. 履修上の注意					

課題が期日までに出せない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。  
授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。

#### 4. 使用教材(テキスト等)

『色彩検定公式テキスト3級編』 新配色カード  
12色程度の色鉛筆 はさみ のり

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

授業態度 20%、中間・期末試験 50%、課題・小テスト 30%

ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。

#### 6. その他

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	清水 恵美
科目名	情報リテラシー5	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	演習
		年次	2
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
		前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>			
◆到達目標	マイクロソフトのPowerPointでプレゼンテーション用のスライドが作成できる 作成したスライドを使ってプレゼンテーション(発表)ができる 日本情報処理検定協会主催の「プレゼンテーション検定2級」以上の検定に合格する		
◆概要	プレゼンテーション検定の問題を解きながら、PowerPointの基本的な操作・スライド作成方法を習得する。プレゼンテーション検定1級または2級(習熟度により受験級を選択)を10月に受験する。		
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>			
第1週	IPアドレスの設定 プレゼンテーションについて、PowerPointの基本的な使い方		
第2週	PowerPointの基本的な使い方、プレゼンテーション検定について		
第3週	プレゼンテーション検定3級程度の問題解法		
第4週	プレゼンテーション検定2級程度の問題解法		
第5週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習		
第6週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習		
第7週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習		
第8週	プレゼンテーション検定1級程度の問題解法		
第9週	プレゼンテーション検定1級程度の問題演習		
第10週	プレゼンテーション検定1級程度の問題演習		
第11週	プレゼンテーション検定1級程度の問題演習		
第12週	習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第13週	習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第14週	習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第15週	習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第16週	習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第17週	期末試験		
<b>3. 履修上の注意</b>			
PowerPointを使用する。 毎授業ごとに課題の提出あり(MITファイルサーバへ)。 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する。 課題が期日までに提出しない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。			
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>			
授業配布プリント 検定過去問題のプリント			
<b>5. 単位認定評価方法</b>			
評価基準:絶対評価 授業態度20%、試験・検定50%、課題・小テスト30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。			
<b>6. その他</b>			

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子		
科目名	キャリアプランニング3	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	就職活動時のマナーを学び、採用試験に向けての準備を整え、希望する企業の内定を獲得する				
◆概要	企業研究や面談を通して、採用試験に向けて準備を行う。また、就職後の労働において必要な心構えや社会人としてのマナーを身につけ、即戦力として働く意識向上を目指す。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	就職に向けて、企業研究について、各種就活書類の書き方				
第2週	履歴書の書き方、セミナー・説明会の目的				
第3週	【就活手帳】封筒宛名の書き方と郵便料金、持参の場合 【電話対応】				
第4週	【就活手帳】送付状、お礼状の書き方				
第5週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第6週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第7週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第8週	中間試験(作文)				
第9週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第10週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第11週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第12週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第13週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第14週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第15週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第16週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
履修中に内定した学生は企業研究レポートなどの課題あり。					
4. 使用教材(テキスト等)					
就職活動手帳					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 60%					
・就職活動への取り組み 30%					
6. その他					

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子		
科目名	総合実習3(TOEIC対策)	必修・選択(注記)	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習3では、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを200点上げる。(総合演習3まで履修した後の目標)また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第7週	中間試験:TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験:TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第16週	期末試験:TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験:TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。 また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。 希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155+施設運営費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント使用、TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>968円(自費)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日) 総合演習2を履修していない学生も総合演習3から受講が可能。					

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子		
科目名	宿泊サービス	必修・選択(注記)	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1年次に履修した『ホテル総合演習1・2』で習得した業務関連と宿泊部門の知識を基に、料飲部門の知識を深め、ホテル実務技能認定試験上級の合格を目指す。				
◆概要	ホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】 第1章 バー・ラウンジの概要				
第2週	第2章 酒の基礎知識(定義、蒸留酒、醸造酒、混成酒)				
第3週	第3章 カクテルの知識(概要、材料、用具、作り方、種類、関係用語、レシピ)				
第4週	【宿泊Ⅱオフィス・サービス編】				
第5週	第1章 宿泊部門	第2章 ドアマン	第3章 ベルマン		
第6週	第4章 クローク	第5章 客室部門	第6章 コンシェルジュ		
第7週	中間試験				
第8週	【料飲Ⅰレストラン・宴会編】 『料飲部門の基礎知識』第1章 料飲部門概要、第2章 什器・食器・備品類の知識				
第9週	第3章 メニュー				
第10週	第4章 西洋料理の基礎知識(概要、フルコース順序、フルコース解説、テーブルマナー、食材)				
第11週	第5章 朝食の基礎知識				
第12週	第6章 日本料理・中国料理の基礎知識				
第13週	『レストラン実務概論』第4章 ルームサービス				
第14週	『宴会実務概論』第1章 概要、第2章 宴会予約、第3章 宴会サービス				
第15週					
第16週	第4章 婚礼サービスと慶弔の知識				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等) ホテルテキスト【宿泊Ⅱフロントサービス編】、【料飲Ⅰレストラン・宴会編】、【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】					
5. 単位認定評価方法 評価基準:絶対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他 担当者実務経験:都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水	
科目名	カラーコーディネート2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	配色の基本、色をもたらす心理的効果、生活の中での色のもたらす効果などを学び、色のコーディネートの仕方や日常における色の活用方法を理解する。 色彩検定3級に合格する。				
◆概要	色のはたらきや性質、「色」の表し方や混色理論などの基礎知識、色のもたらす心理的効果、カラーコーディネートの基礎を学ぶ。配色(色の組み合わせ)については、主に「PCCS」(色彩体系の一つ)をもとに学んでいく。検定合格に向けて、過去問題を中心に問題演習に多く取り組む。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ファッションと色彩				
第2週	ファッションと色彩				
第3週	インテリアと色彩・色名 過去問解答・解説				
第4週	過去問解答・解説				
第5週	過去問解答・解説				
第6週	過去問解答・解説				
第7週	過去問解答・解説 期末試験				
第8週	本試験答え合わせと解答解説 期末課題				
第9週	期末課題				
第10週	期末課題				
3. 履修上の注意					
課題が期日までに提出しない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。					
4. 使用教材(テキスト等)					
『A・F・T色彩検定公式テキスト3級編』 新配色カード 12色程度の色鉛筆 はさみ のり					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。 期末試験の得点が低くD評価だった場合、本試験合格で単位認定する。					
6. その他					
検定受験日11/8(日)					

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	料飲サービス		必修・選択 (注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	アヴニール	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	平成14年に厚生労働省大臣より職業能力開発促進法に基づく「レストランサービス技能士」の指定試験機関の指定を受けた『日本ホテル・レストランサービス技能協会』主催のレストランサービス技能3級試験(国家資格)の実技試験の合格を目標とする。				
◆概要	「レストランサービス技能検定」を受検するためには、各等級毎に所定の実務経験年数が必要となるが、3級については実務経験年数のない専門学校の在校生で卒業する見込みのある者も受検できるよう例外的な措置として承認校制度が設けられ、未来ビジネスカレッジはその承認校である。在学中に国家資格を取得することはサービス業界でも高い評価を得られる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【朝食のサービス】 メニュー、試験場に用意してあるもの確認、シミュレーション				
第2週	【朝食のサービス】 指示事項にある課題練習				
第3週	【ランチサービス】 メニュー、試験場に用意してあるもの確認、シミュレーション				
第4週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第5週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第6週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第7週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第8週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第9週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
3. 履修上の注意					
レストランサービス技能検定の筆記試験に不合格した者も同様に本科目を受講し、演習を行う。					
4. 使用教材(テキスト等)					
制服着用					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)70%					
・中間・期末試験状況 20%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。 担当者実務経験: 五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ブライダル総論	必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>			
◆到達目標	ブライダルコーディネーターに必要な企画・運営・接客知識など総合的な専門知識と実務能力を習得する。国家試験である「ブライダルコーディネーター実務技能検定3級」の合格を目標とする。		
◆概要	1年次に習得したブライダルに関する基礎の復習と応用を交え、より深く学習する。ブライダル分野に限らず、一般常識や時事問題にも触れ学習をする。ブライダル業界で必要とされる幅広い専門知識を身に付け、学科試験と実技試験の対策を行う。		
<b>2. 授業内容（週単位で記入）</b>			
第1週	ブライダルコーディネーター実務技能検定について/概要説明		
第2週	試験対策/解説/練習問題/答え合わせ		
第3週	試験対策/解説/練習問題/答え合わせ		
第4週	試験対策/解説/練習問題/答え合わせ		
第5週	試験対策/解説/練習問題/答え合わせ		
第6週	試験対策/解説/練習問題/答え合わせ		
第7週	試験対策/解説/練習問題/答え合わせ		
第8週	試験対策/解説/練習問題/答え合わせ		
第9週	中間試験		
第10週	試験対策/解説/練習問題/答え合わせ		
第11週	練習問題/解説/答え合わせ		
第12週	練習問題/解説/答え合わせ		
第13週	練習問題/解説/答え合わせ		
第14週	練習問題/解説/答え合わせ ★2027年1月 国家試験実施		
第15週	課題取り組み		
第16週	課題取り組み		
第17週	期末試験		
<b>3. 履修上の注意</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習問題は宿題とする場合がある。</li> <li>・1年次に学習したブライダルにおける練習問題や課題を用いて自主的に復習を行うこと。</li> <li>・当校は、国家試験実施認定校として開催・運営を行っているが、開催基準が満たない場合、名古屋または東京会場にて受験を実施する場合がある。(協会より9月中旬に実施認定校の可否決定予定)</li> <li>・当校で試験実施ができない場合、移動手段・旅費(各自負担)に関しては追って知らせることとする。</li> <li>・受験票には、受験日より6ヶ月以内に撮影した、横3cm×縦4cmの証明写真が必要となるため、受験前までに証明写真の撮影を必要とする。(撮影費用は各自負担)</li> </ul>			
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>			
ブライダルコーディネーターテキスト、ブライダル用語辞典、パソコンに接続可能なイヤホン(任意)			
<b>5. 単位認定評価方法</b>			
評価基準: 絶対評価			
・出席による評価			
出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)40%/課題・中間・期末試験による評価50%			
<b>6. その他</b>			
担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。			

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波		
科目名	ブライダルプランニング3	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2月に予定している挙式披露宴実習(リアルウェディング)に向けて企画、プレゼン、準備、練習、施行を学生が主体となって実施する。企画、提案力の向上と施行運営の能力を身に付け、リアルウェディングを成功させる。				
◆概要	リアルウェディングの施行に向けて、企画、お打ち合わせ(提案)、施行・運営、全てにおいて学生が携わる。結婚式に関わる各スペシャリストの存在を理解、把握し、役割を決定し担当をする。準備、練習はセクションごとチームとなり、他セクションと協力をしながら取り組む。一般的な結婚式のスケジュールに則り、円滑に打ち合わせや提案が行えるよう、必要な資料(アンケートや提案)の作成および、製作物の提案、製作、完成までを行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	挙式実習について概要説明/新郎新婦について/注意事項等 昨年度の担当セクションと実施内容の共有				
第2週	グループワーク(テーマ、進行、演出等の企画と提案)				
第3週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第4週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第5週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第6週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第7週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第8週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第9週	中間試験(経過報告)/グループワーク、挙式披露宴練習				
第10週	グループワーク、挙式披露宴練習				
第11週	挙式披露宴通し練習				
第12週	挙式披露宴通し練習				
第13週	挙式披露宴通し練習				
第14週	挙式披露宴通し練習				
第15週	期末試験 ★リハーサル(2027年2月3日(水))/本番(2027年2月4日(木))【予定】				
第16週	振り返り・反省会				
第17週	お礼状作成、マニュアル作成、提出				
3. 履修上の注意					

- ・2学年合同の授業とし、リアルウェディングの施行は学生全員が参加すること。
- ・1、2年生でグループを組み、グループワークやプレゼンテーションを実施する。
- ・自主的かつ積極的に取り組むことが必要だが、チームで協力することが必要なため、相談や報告なしに個人の判断で行動することはしない。
- ・2年生は、2年間の学びの集大成として、リアルウェディングを施行する。
- ・1年生は習得中の学びに加え、結婚式を企画・運営する基礎を学び、2年生と共に取り組む。
- ・制作物は、2年生の卒業研究と関連、並行して行うため、授業の都度、経過状況を共有する。
- ・グループワークを基本とするため授業時間内で企画や製作を行うが、授業時間内で取り組みなかった場合、授業時間外(SHR前、放課後等)に準備、練習を行うことがある。計画を立て取り組むこと。
- ・SNS(LINE、Instagram等)は、連絡手段の使用に限る。全員で共有、決定する事項に関しては、授業内で時間を設け、直接話し合い、決定・検討を行うこと。
- ・授業時間外にアヴニール、ドレスルームを使用する場合は、事前に教員と相談をする。

## ノートパソコン

### 5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)50%/提出物・中間試験・リハーサル・本番による評価40%

### 6. その他

担当者実務経験：専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウェディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	卒業研究1・2・3		必修・選択（注記）	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数（予定）	51コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2年次の「パーティープランニング2」のリアルウェディングで担当したポジションの研究をする。（必要に応じて制作物を作成する。）または、2年間の学習を活かし、興味を持ったことや就職先で活用できそうなことを研究・制作する。制作物（制作がある場合）、卒業論文、中間、最終発表で使用したパワーポイントデータを提出する。				
◆概要	個人、又はグループで研究テーマを決定し、研究・制作を行う。研究課程は中間、最終の2回の発表会にてパワーポイントデータにて発表する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	卒業研究概要説明、スケジュール説明				
第2週	テーマ決め、スケジュールを立てる、費用計画				
第3週	必要備品の準備、購入、研究・制作に取り掛かる				
第4週	研究・制作				
第5週					
第6週					
第7週					
第8週	研究・制作、中間発表練習				
第9週					
第10週	中間発表				
第11週	研究・制作、論文作成				
第12週					
第13週					
第14週					
第15週	研究・制作、論文作成、最終発表練習				
第16週	最終発表				
第17週	論文提出				
3. 履修上の注意					
毎週金曜日に1週間分の研究日誌を提出する。研究、マーケティング等、就職後に役立てるよう積極的に行なう。中間、最終発表は評価表を用いて、学科教員、他グループ、1年生が評価する。					
4. 使用教材(テキスト等)					
各授業テキスト、ノートパソコン他					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%					
・ 完成度（内容発・発表）60%					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ウエディングスビューティフル2	必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	前・後期
			前期
			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>			
◆到達目標	アメリカのウエディングに関する歴史、慣習、宗教における挙式との関連性を学び日本のウエディングとの違いを理解する。欧米のウエディングの基礎を学びながら、ブライダルのプロとして「人間力」と「ビジネスのプロセス」をテキストに沿って学習する。WBW「認定ウエディングスペシャリスト」の合格を目指す。		
◆概要	ウエディングの本場であるアメリカの歴史、慣習を筆頭に「ヒューマンスキル(人としての成長)」、「世界のウエディングと宗教の関連性」、「ビジネス力」を習得する。全16章を1章ごとに学習し、課題を提出する。提出課題は、正解だけを問うのではなく、自身の考えや独自の発想力を活かし、自ら考え行動する力を養う。		
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>			
第1週	第10章【テーブルトップとテーブルウェア】解説/方大		
第2週			
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週			
第10週			
第11週	第11章【ウエディング・ファッション】解説/方大		
第12週	第12章【プロデュースの実務を習得する】解説/方大		
第13週			
第14週			
第15週			
第16週			
第17週			
第18週	第13章【披露宴】解説/方大		
第19週	第14章【結婚式の招待状】解説/方大		
第20週			
第21週			
第22週			
第23週			
第24週			
第25週			
第26週	第15章【ビジネスフォームと契約】説明/課題		
第27週	第16章課題/提出		
第28週			
第29週			
第30週			
第31週			
第32週			
<b>3. 履修上の注意</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習前に各章や指定範囲を必ず読み授業に臨むこと。</li> <li>・課題の提出は、実施した授業内または放課後までに提出をすること。</li> <li>・課題はA+～Cの成績がつき返却される。Cの評価は合格点に達するまで再提出が必要となる。</li> <li>・課題合格に向け、課題提出やグループワークを実施することがある。</li> <li>・第16章(最終章)は課題量が多いため、第1章～第15章の振返りができるように自身でノートや課題をまとめる他、計画的に課題を進めること。</li> </ul>			
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>			

ウエディングスビューティフルテキスト、日本のウエディングプランナー育成プログラム、日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン、雑誌、式場パンフレット、電卓

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出席による評価10%/授業への取り組み(授業姿勢)40%/課題成績50%

#### 6. その他

担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	実務教養3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期後半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1年次に履修した『ホテル総合演習3・4』で習得した業務関連、宿泊・料飲部門の知識を基に、ホテル実務技能認定試験上級の合格を目指す。				
◆概要	ホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ホテル実務技能認定試験上級過去問題解答、答え合わせ				
第2週	ホテル実務技能認定試験上級過去問題解答、答え合わせ				
第3週	ホテル実務技能認定試験上級過去問題解答、答え合わせ				
第4週	ホテル実務技能認定試験上級過去問題解答、答え合わせ				
第5週	ホテル実務技能認定試験上級過去問題解答、答え合わせ				
第6週	ホテル実務技能認定試験上級過去問題解答、答え合わせ				
第7週	ホテル実務技能認定試験上級過去問題解答、答え合わせ				
第8週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等) ホテルテキスト【宿泊Ⅰフロントオフィス編】、【宿泊Ⅱフロントサービス編】、【料飲Ⅰレストラン・宴会編】、【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】、【ホテル業務関連知識】					
5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	古屋 怜子	
科目名	外国語(中国語)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	正しい発音、声調の基本を理解し、会話の基礎を築くこと 挨拶や自己紹介、簡単な受け答えをできるようにすること 日常表現を可能な範囲で順次学び、コミュニケーション力を獲得すること				
◆概要	ピンインの声調と発音の基本を身につけ、基本表現を覚え、接客場面などの会話を学習				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 (9/29)	第一部 中国概況 中国人観光客と中国語を知ろう 中国語の発音をマスター	第二部 中国語概況 中国人観光客はこんな特徴がある 声調・基本母音・複母音 声調符号のつけ方			
第2週 (10/6)	中国語の発音をマスター 第1章 接客基本フレーズ コラム1 人称代名詞	子音(有気音と無気音) 1 あいさつ	鼻音をともなう母音 2 出迎える		
第3週 (10/13)	中国語の発音をマスター 第1章 接客基本フレーズ コラム1 指示代名詞・場所代名詞	声調の変化 3 対応する①	4 対応する②		
第4週 (10/27)	第1章 接客基本フレーズ コラム1 方位詞 コラム2 中国語ピンイン 日中・中日 翻訳の方法について (パソコン使用)	5 案内する	6 中国語でのサービス		
第5週 (11/10)	第1章 接客基本フレーズ 数字・年・月・日・曜日及び誕生日の言い方 コラム3 数字について	7 話を聞く	8 お詫びする		
第6週 (11/17)	家族の呼称 コラム4 中国語で自己紹介の文章作成				
第7週 (11/24)	中間試験 原稿を見ずに自己紹介				
第8週 (12/1)	第1章 接客基本フレーズ コラム5 中国のお金及び決済方法について	ワードバンク 1 2 14 お勘定②	13 お勘定① 16 見送り		
第9週 (12/8)	第3章 飲食店フレーズ	ワードバンク 18 19 31 注文をとるまで	30 テーブルに案内する 32 料理を勧める		
第10週 (12/15)	第3章 飲食店フレーズ	ワードバンク 20 21 22 37 居酒屋	33 サーブする		
第11週 (12/22)	第4章 ホテル・旅館フレーズ コラム4 中国のホテルについて	ワードバンク 23 24	38 チェックイン 39 部屋の要望		
第12週 (1/12)	第4章 ホテル・旅館フレーズ	ワードバンク 25 42 朝食	40 宿泊料金 41 時間と部屋番号 43 設備を説明する		
第13週 (1/19)	第4章 ホテル・旅館フレーズ	44 温泉旅館 46 温泉旅館の食事	45 温泉の効能 温泉の入り方のアドバイス		
第14週 (1/26)	第6章 緊急・トラブルフレーズ	ワードバンク33 34 59 トラブル	57 具合を聞く 58 救護する 60 地震		
第15週 (2/2)	グループごとに中国語会話文作成 ・ レストランで ・ ホテルで(チェックイン・チェックアウト) ・ ショッピングで				
第16週 (2/9)	中国最大のイベント 春節についての紹介 今まで勉強した内容の復習				

第17週 (2/16)	期末試験 グループの中で会話文をローテーションで行う
3. 履修上の注意 ・ 勉強した内容について繰り返し練習すること ・ グループでテーマ応用練習・発表をする場合もある	
4. 使用教材(テキスト等) ・ すぐに使える接客中国語会話 大特訓 授業に合わせて、必要時に資料を用意 ・ CDプレイヤー ・ ノートパソコン	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価 ・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・ 課題発表(中間・期末) 70%	
6. その他	

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習4(TOEIC対策)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習4でも、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを200点上げる。(総合演習4まで履修した後の目標) また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第7週	中間試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第16週	期末試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155+施設運営費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント使用、TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>968円(自費)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日) 総合演習2を履修していない学生も総合演習3から受講が可能。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子		
科目名	総合演習 2	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。